

教宣 せぶん

祭りにみる組織力のちがい

1月14日、ピラ配りやカンパなど、いつも私たちのたたかいをご支援して頂いている先輩から新年会のお誘いを受け行って来ました。新たに購入した土地、事務所のお披露目を兼ねた新年会でした。12月8日に一緒にピラを配った仲間を中心に5名が集まりましたが、先輩が新年会をこの日に企画したのは、先輩の住む地域に古くから開かれているお祭りがあったからでした。

先輩の自宅から自動車で3分ほど行ったところにある神社に行って、まずビックリしたのはその人の数です。神社までの参道は、両側に100店は出ていると思われる出店でギッシリ埋められ、4メートルほどの幅の道は行き交う老若男女であふれ返っているのです。前を進むにも行き交う人で体が当たってしまいます。これが名だたる神社の初詣なら驚きもしませんが、人並みに押されてたどり着いた神社は、ごくごく普通の、私の家の回りにもある神社とまったく変わりません。この参道を中心としたこの地域から一歩外に出ると、お祭りをやっていることも、多くの人が集まっていることもまったくわかりません。当たり前の田舎の風景があるだけです。いったいこの小さな集落のどこにこれだけの人がいたのか、その落差と祭りそのもののパワーに驚嘆しました。

私の住んでいる回りにも、子供の頃は祭りがありました。五穀豊穡を祈願したり、秋の収穫を祝ったり、各地域で毎年開催され、家では親戚・縁者が集まり、それぞれの家の一大行事になっていました。その当時でさえ「昔はもっと人が出ていた。こんなものではなかった」と言われていました。それがいまでは、まったく荒んでしまい、祭りもやっているのか、やっていないのかわからない状態です。子供の頃に「昔の祭りはこんなものではなかった」と聞いた盛況さを、この祭りで経験しました。これがあの時聞いた「昔の祭り」の盛況さだと思いました。重ねて言いますが、先輩の住んでいる地域は決して人口の多いところではなく、どちらかと言えば普段は閑散とした地域です。どうしてこの場所にこんな盛況な祭りが今でも残っているのかと不思議に思いましたし、こんな祭りがまだ残っていることがとても羨ましく感じました。

人口が多いからと言って「伝統」は受け継がれていくとは限りません。おそらく、この祭りの伝統を残していかなければならないと思う人がたくさんいたからこの地域の祭りは今でも昔ながらの盛況さを保ったままに残っていると思います。先輩の地域の祭りと私の地域の祭り、そこには「伝統」を残していかなければならないと思う人がつくってきた「組織力」の違いがありました。

ひょっとしたら制度廃止をたたかう私たちの組織に、「伝統」が残っている羨ましさを感じている方がいるかもしれません。そして「伝統」を残していくヒントを先輩の地域の祭りから学んだような気がします。